

# 平成29年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	520	生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる
施策の目標	区民が、趣味や教養、文化活動など、さまざまな生涯学習活動に主体的に取り組み、生きがいのある生活を送っています。また、区民の間に生涯学習の輪が広がり、自身が習得した学習成果を地域活動に活かしています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	50.0%				40.0%					42.0%
実績	38.1%									
指標名	「身近な場所で学習ができる」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標	44.0%				53.5%					60.0%
実績	52.0%									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
<p>「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合について、実績値の経年比較で平成27年より約28ポイント増加しているが、目標値は下回っており、平成28年度からの新基本計画において実績値を踏まえた目標値を設定している。</p> <p>区民が主体的に生涯学習や文化活動等に取組むことは、生きがいづくりや地域の魅力の再認識につながっていく。そのためには、区や、誘致大学、民間事業者等がいかに区民に対して活動の場や機会を提供し、周知を行うかが重要である。</p>	H28	109,036
	H29	
	H30	

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	千葉大学との包括的連携に基づき、生涯学習、文化活動の場や機会を提供できるようになり、成果が期待できる。

## 4 今後の施策の運営方針

評価	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
旧中小企業センターを活用し、千葉大学がキャンパス展開するにあたって、区民の学習機会の提供、学校教育への支援、中小企業のものづくりコラボレーションなど、包括的連携に基づく連携事業を積極的に実施する必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
千葉大学やその他の(誘致)大学と連携を図り、知の拠点としての大学のあるまちづくりを推進する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	大学誘致推進事業	109,036	区民がさまざまな生涯学習活動に取り組むことで、生きがいのある生活を送り、また地域活動に活かしていくことを目標としている。この一助として、大学と地域・地元企業等との事業連携を行うことで、まちづくりや区民の生涯学習・文化活動等の促進を図っていく。	—	→	改善・見直し
				0		平成28年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

# 平成29年度 事務事業評価シート

<b>施策</b>	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	<b>部内優先順位</b>					
<b>事務事業</b>	大学誘致推進事業					1		
<b>事業概要</b>	学校跡地に大学を誘致することにより、大学と連携した公開講座の実施や大学図書館の区民開放等、区民の生涯にわたる学習の機会と場を提供する。					主管課・係(担当)		
						政策担当		
						03-5608-6231		
<b>施策への関連性</b>	区民がさまざまな生涯学習活動に取り組むことで、生きがいのある生活を送り、また地域活動に活かしていくことを目標としている。この一助として、大学と地域・地元企業等との事業連携を行うことで、まちづくりや区民の生涯学習・文化活動等の促進を図っていく。							
<b>必要性・妥当性</b>	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査によると、区の仕事として「生涯学習の充実」が重要であると回答した区民の割合は37.0%であり、一定程度の需要がある。大学との連携により、学習の機会や場が増加し、区民への寄与に繋がると考えられる。							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
	民間事業者等第三者を介して大学や区民との交渉・協議等を行うよりも、区が主体的に行動した方が効率的・効果的に事業を行える。							
<b>有効性・適格性</b>	<b>手段に対する指標(活動指標)</b>	<b>指 標</b>	<b>誘致を決定した大学数</b>				<b>単 位</b>	<b>校</b>
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		-	37	目標	1	-	-	
				実績	1			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	-	-	-	-	-
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	国立大学法人千葉大学と包括的連携に関する協定を締結した。(平成29年3月22日。) 当該協定の締結以降、複数の大学から問合せや協議の申し入れを受けており、千葉大学以外の大学とも誘致の実現に向けた協議を行っていくことが考えられるため。							
	<b>目的に対する指標(成果指標)</b>	<b>指 標</b>	<b>地域と大学の連携活動数</b>				<b>単 位</b>	<b>件</b>
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
20		37	目標	-	1	3	5	
			実績	0				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	7	10	12	14	17	20
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
生涯学習や文化活動、生きがいづくり等、各方面への影響を網羅した成果指標の設定は困難であるため、「地域と大学の連携活動数」を成果指標とする。								
<b>財政面〔決算額〕(単位：千円)</b>	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	109,036							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				
				旧西吾嬬小学校及び旧曳舟中学校における解体前の光熱費や解体工事費が主である。				

<b>1 必要性・妥当性</b>					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
墨田区のように、地価が高く、大学を設置できる広い土地がないところでは、区が実施する以外の方法はない。					
<b>2 有効性・適格性</b>					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
<b>判断理由</b>		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事業目的は、施策に合致しているが、これにとどまらず様々な効果が期待できる。土地活用のためには、解体にかかるコストは必須であるため。		5	4	5	4
<b>3 効率性・経済性</b>		<b>改善・見直しの上継続</b>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
<b>判断理由</b>					
将来コストをどこまで抑えられるか、どこまで波及効果を及ぼせるかは今後の課題である。					
<b>中間・最終年度の講評</b>	千葉大学との連携協定を締結したところであり、今後十分な成果を出せるよう、具体的な連携事業に取り組んでいくことが必要である。				
<b>今後の方向性</b>	千葉大学と連携の内容を詰めていくとともに、他大学の誘致を実現する。				